平成２８年６月１日発行

かまにし

第６０号

発　行　地域力推進蒲田西地区委員会
編　集　地域情報紙編集委員会

わがまちの顔

戦争下の学校生活

作家　岡野（おかの）　薫子（かおるこ）さん

以下は、児童文学界重鎮の一人、岡野薫子さんの自伝的著作『太平洋戦争下の学校生活』（平凡社ライブラリー・二〇〇〇年）の一部紹介である。

本書の表紙（左＝作業服姿の著者）

著者と蒲田

著者は昭和四年の生まれ。小学校入学直前に巣鴨から、当時の蒲田区蓮沼町に移住した。矢口東尋常小学校入学。昭和一〇年四月から一六年三月の卒業までを同校で学んだ。後半、安方町に転居。

小学校を終えた著者は昭和一六年四月、調布高等女学校（現、田園調布学園中・高等学校）に進学する。二〇年三月繰り上げ卒業。八月終戦。その間、一九年に区外に疎開している。

トピックス

◆夏の夜は、蒲田駅東口の大通りに延々と出店が続く。威勢のいいバナナ売り。ガマの油売りはたすき掛けで、大きな刀を抜いてみせる。ホタルや金魚、ひよこの店も。

◆日中戦争が始まり、国内は勝ち戦の報に湧いた。鈴を鳴らして号外屋が走り、商店街に祝賀アーチ、昼は旗行列、夜は提灯行列が行われた。著者が初めて提灯行列に参加したのは四年生の時だった。

◆出兵兵士は安方神社で武運長久を祈り、矢口渡駅で電車に乗る。手製の日の丸を振り、駅頭で歌うのは「露営の歌」。「勝ってくるぞと勇ましく…」の旋律は勇壮というよりも悲壮に感じられた。

◆小学校最後の運動会のプログラムは、女子の「防空演習」、男子の「肉弾三勇士」など戦時色の濃いものになった。

◆太平洋戦争に突入し、自家用防空壕が推奨されたが、著者の家では五〇センチも掘ると地下水が湧いて、どうしようもない。矢口渡駅近く、雑貨商の立派な壕は近隣で評判だった。後日、この中で一家が全滅しようとは。

◆開戦一周年のころから、全校生が集うと「海ゆかば」を斉唱した。「君が代」の次にこれを歌うと気持ちが昂揚し、天皇陛下のためならば命を投げ出しても惜しくない気持ちにさせられた、と著者は書いている。

◆戦況の悪化と共に、校章のバッジまでも、金属ということで供出した。やがて学校内にも工場が設けられ、著者たち四年生は雑色の宮田製作所に勤労動員される。飛行機の脚の部分を作っていた。

◆昭和二〇年になると相次ぐ空襲で、四月一五・一六日には蒲田全区の九九％が焼失した。もちろん動員先の工場も。一億玉砕の日が来るのを覚悟した、と同級生の一人は回想している。

本書の特色

書名どおり、戦時下一〇年の学校生活を振り返る。著者自身の体験を同級生の回顧談で補い、実に詳細な記述で満たされている。また、当時の国民を鼓舞した戦時歌謡が随所に記載されている。

著書の岡野さんは八七歳、今も創作活動に余念がない。

（取材　山口委員）

ご存知ですか？

お白粉（しろい）地蔵と子育て地蔵

西蒲田四丁目に欣浄寺（ごんじょうじ）というお寺があります。お寺の門をくぐるとすぐ左側に女性を色白美人にするというありがたいお地蔵様が安置されています。このお地蔵様の歴史は古く欣浄寺が浅草に在った元禄十二年（一六九九）の建立で、お寺の近くに在った井筒屋というお店の水白粉をお地蔵様の顔に塗ってそれを自分のお白粉に混ぜてお化粧にすると色白美人になると言われていますが、今ではお顔にお白粉の跡はありません。また、お白粉地蔵の隣には、廃寺になったお寺や個人から寄贈されたお地蔵様が七体一緒に並んでいます。

また、同じ敷地内にある光明幼稚園には子育て地蔵と言う六体のお地蔵様が安置され、園児の父兄の有志が季節ごとにお地蔵様のあぶちゃん（よだれかけ）などを着せ替えているそうです。

また、欣浄寺は針供養のお寺としてはこの地域では唯一のお寺で、昔は二月の針供養の日には若い女性で賑わったそうです。

（取材　石渡・塩田・三瓶委員）

就任ご挨拶

恩田　一郎

みなさま、こんにちは。本年四月に蒲田西特別出張所副所長に赴任いたしました恩田一郎（おんだいちろう）と申します。どうかよろしくお願いいたします。

出張所の業務は、戸籍や住民票などの窓口であるとともに、地域の皆様によるまちづくりを支援していくための、区の政策的拠点であり、最前線であると考えます。

まだ短期間ではありますが、この立場で地域の皆様の活動にかかわらせていただきましたが、皆様の地域に対する「愛」と、「情熱」には改めて敬服させられているところです。

新任早々に、当紙「かまにし17」のバックナンバーを拝読させていただきましたが、その特集内容の素晴らしさ、充実度には、正直なところ驚かされました。

地域の皆様が地域の歴史を調べ、紐解き、それを地域の財産として共有化する。そしてその財産を地域の未来のために役立てていく。

このような姿勢こそが蒲田西地区の皆様の熱心な活動の原点にあり、地域力の源泉となっていることを強く感じました。

そのような貴重な紙面をお借りして、ご挨拶させていただいたことに心から感謝するとともに、私もこのような地域の皆様の活動の一助になるべく職務を果たしていきたいと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。

蒲田西特別出張所管内

人口	男	31，966人
	女	29，498人
	計	61，464人
世帯		34，513世帯

平成28年5月1日現在

「かまにし17」をお読みいただき、ありがとうございます。情報紙に対するご意見やご感想、または投稿などございましたら、お気軽に事務局までお寄せください。

事務局　蒲田西特別出張所
大田区西蒲田七-十二-七
電話　3732-4785

田園調布が目蒲線のルーツだった

――大正七年に分譲開始した日本初の計画都市

東急の歴史

東京急行電鉄株式会社の歴史は大正十一年（一九二二）九月二日に目黒蒲田電気鉄道株式会社が設立されたことが始まりです。

会社が設立された年の三月には目黒蒲田電鉄の母体となった田園都市株式会社が、すでに目黒～洗足～調布村間を第一期として建設工事に着手しており、目黒～丸子（現沼部）間が開通したのは大正十二年（一九二三）三月十一日でした。その半年後には関東大震災が起きてしまいます。

関東大震災

大正十二年九月一日十一時五十八分に関東地方で発生した地震で平成二十三年の東日本大震災以前では日本災害史上最大級の被害をもたらしました。

半年前に開通したばかりの目黒～丸子間の電車も被災しましたが、社員の不眠不休の復旧工事の結果郊外電車としては最も早い八日間の休業で運転を再開しました。この年十一月一日に路線が蒲田まで延長され目蒲線が全通します。

目蒲線

目蒲線（めかません）は、かつて東京都品川区の目黒駅と大田区の蒲田駅との間を結んでいた東急の鉄道路線です。

東急の母体である目黒蒲田電鉄が最初に開業させた路線でもあります。

平成十二年（二〇〇〇）八月六日に多摩川駅（この日に多摩川園駅から多摩川駅に改称）を境に目蒲線は目黒線と東急多摩川線に分割され「目蒲線」という名称は消滅しました。

目黒線

目黒駅～多摩川駅～日吉駅

分割と同時に武蔵小杉駅まで延伸され平成二十年（二〇〇八）六月二十二日に日吉駅まで延伸されました。

東急多摩川線

多摩川駅～蒲田駅

なぜ多摩川線でなく東急多摩川線と呼ぶのかと言うと、すでに西武多摩川線が存在していることや東急の玉川線や新玉川線といった似た路線と区別するためです。

かつての
目蒲線

平成12年に目蒲線を走った7200系

現在の
東急多摩川線

東急多摩川線で現在走る7000系

田園調布駅

東急東横線か目黒線の田園調布駅を西口に出ると、駅前から五本の道路が放射状に延びています。

整然と立ち並ぶイチョウ並木が春から夏は緑、秋は黄色と道行く人の目を楽しませます。

住宅と道路の境は石垣や板垣を使わずに、花や低い生垣で覆うという取り決めを行っています。

このように町全体に緑を植えるガーデン都市構想は、日本で初の試みでした。

駅前には「田園調布の由来」という銅版があり下のように書いてあります。

★

ご覧いただいた銅版の中には、ちゃんと目蒲線を作った目黒蒲田電鉄のことが出てきました。

田園調布駅は最初「調布駅」だったようですね。京王線の調布駅は大正二年に開業しているので、あちらが先輩です。

新しい東急多摩川線が京王多摩川線と同じ名称であることも含め京王電鉄と似ているところが多いような気がします。

筆者が住んでいるのは東京都大田区多摩川ですが、京王多摩川駅の近くには東京都調布市多摩川という住所があってびっくりです。

田園調布の由来

この広場を中心とする凡そ八十万平方米の地域は　明治文化の先覚者　渋沢栄一翁が我国将来の国民生活の改善の為に当時漸く英米に現れ始めた「田園都市」に着目して都会と田園との長所を兼ねた模範的住宅地を実現させようと念願して既にあらゆる公的関係から退かれた後であるにも拘らず　自ら老躯を運んで親しく土地を選定された所であります

その目的の為に大正七年　田園都市株式会社が創設されて翁の理想に共鳴する人々に土地の分譲を行ない　我国最初の近代的大計画都市が実現しました　そして居住者による社團法人が生れました

この都市全体を一つの公園のように明るく美しいものにする為　建築その他に関し色々な申し合せを固く守り殊に道路との境界には一切土塀板塀などを設けず花垣か生け垣の低いものの程度とすることなどを厳格に実行しました　その協力の結果　この明るい住宅地と楽しい散策地が生まれたのであります

大正十一年には　同社の姉妹会社として　目黒蒲田電鉄が創立され　大正十二年三月　当時荏原郡調布村であった当地に調布という駅が設けられ　間もなく田園調布という駅名に改められました　その後この地区が東京市に編入された際町名改正が行われて　当都市のみならず周辺の町村をもひろく含めて田園調布と呼ぶこととなりました　その折当会の地域は頭初の田園都市の約三分の二となり　他の三分の一は世田谷区玉川田園調布となりました

ここに明るく住む方々も　ここを楽しく訪れる方々も　渋沢翁の理想が永くここに栄えてゆくように　この田園都市を愛護して下さるようお願い致します

昭和三十四年秋　社團法人田園調布会　会長　矢野一郎

蒲田西地区を走る電車

筆者の自宅近くを走り通学から通勤にお世話になった目蒲線と多摩川線について書いてきましたが、蒲田西地区を走る電車は多摩川線だけではありません。

池上線についても少しだけ触れておきましょう。

大正元年（一九一二）十二月に池上電気鉄道は、目黒～入新井村（現大森）の免許申請をします。

大正六年六月に路線変更の申請をして翌年認可され、目黒不動尊・洗足池・池上本門寺・御嶽神社への参詣客輸送と野菜輸送を目的とする鉄道がスタートをきりました。

その後、幾度かの路線変更の末、大正十年に工事着手、翌年の大正十一年十月六日に池上～蒲田間が単線で開業します。

目蒲線の丸子（沼部）～蒲田間の開業は大正十二年十一月一日ですから、蒲田西地区では池上線が目蒲線より約一年先輩です。

目蒲線は現在の多摩川線の区間は第二期工事でしたが、池上線の第一期工事は池上～蒲田間でした。

なぜ池上までで、開業が十月？池上本門寺のお会式（十月十一～十三日）に間に合わせるためなら間に合って良かったですね。

（取材　大良委員）